

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2875200897		
法人名	医療法人社団白眉会		
事業所名	エルダープレッジグループホーム		
所在地	〒651-2233 神戸市西区櫛谷町福谷882 (電話) 078-996-3000		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	〒666-0016 川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	5月8日	評価確定日	2007年6月27日

【情報提供票より】(平成19年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤11人, 非常勤 5人, 常勤換算	14.5 人

(2) 建物概要

建物構造	耐火構造	造り
	2階建ての	~1・2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		830 円	

(4) 利用者の概要(4月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤クリニック、佐野伊川谷病院
---------	-----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

日々の生活で、利用者の心身状態が徐々に低下しつつある中で、職員は、利用者が出来ることや好きなことに意欲的に関わるように配慮している。声かけと笑顔の対応に心がけ利用者の希望に即して、散歩や買物などを積極的に勧めている。

ホームとしては、今後さらに運営推進会議を通して、地域との交流を深めつつ利用者一人ひとりが地域にとけこみ、地域の一員として自然な交流ができる働きかけに努める方向にある。

管理者も、職員を信頼し、自発性を尊重し、暖かいムードがあり、利用者の表情も明るく穏やかである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・前回評価での改善課題である浴室の手すり設置については、指摘箇所も含め早急に対応した。預かり金規約の作成については、入居者、家族にとってこれまで支障なく利用しており、管理者、職員で検討した結果、規約等の必要性が見られないことから作成されていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・管理者、職員が限られた時間の中で、できるだけ関わり自己評価に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・会を重ねるごとに、雰囲気も和み意見も出されるようになった。地域の老人会からの出席もあり避難訓練を盛り込み家族や利用者とも一緒に体験してもらい、意見や感想を聞く機会としている。また毎回テーマを決め、内容を絞って話しやすい工夫をしている。今後家族との関係性がこれまで以上に向上し、サービスの改善につながることをホームとしても期待している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・家族会では、家族同士の共通の話題についての話し合いや交流、運営推進会議では、地域での関わりを踏まえた情報交換の場として、それぞれの場面で家族が意見や思いが出しやすい雰囲気作りをしている。今回初めての取り組みである管理者と家族との個人面談は、さらに個別の状況の把握と家族との信頼関係を築く貴重なきっかけとなっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・運営推進会議を、地域参加への機会ととらえ積極的に入っていきたいと考えている。同時にホームに来てもらうチャンスとも考えられるので有効に活用されたい。日常の買い物、散歩時の挨拶や会話がより気軽にでき、地域との相互関係が築けるよう努力が望まれる。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・日常の家事等を中心に利用者と協力し合いながら、運営者・管理者・職員が「家庭的な雰囲気」のホームを目指している。		・「家庭的な環境とともに」「地域住民との交流のもとで」という基本方針のもと、制度改正に即した理念を検討されたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・利用者が安らげるようなやさしい声かけ、笑顔で接する態度、利用者本来の思いをくみとる努力など「わが家」の雰囲気づくりに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・夏まつりや盆おどりへの参加はあるが、地域の一員としての交流にはいたっていない。隣接のログハウスで土曜日に喫茶をオープンしているものの地域での活用にはまだ不十分である。		・行政の協力を得ながら。地縁団体との密接な関係づくりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者・職員共同で自己評価に取り組んだ。前評価における問題点の浴室の手すりには、すでに設置した。預かり金の規約作成については、利用者・家族が現状に納得しているので作成していない。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・会を重ねるごとに、雰囲気もなごみ意見も出やすくなってきた。会議当日に避難訓練等も織り交ぜながら、具体的な意見を出してもらい働きかけをしている。</p>		<p>・家族にとっては、外部者との情報交換や交流の機会にもなり、意見を出しやすく、ホームとの関係性が向上している。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市担当者と行き来はないが、電話での確認、相談の機会はある。</p>		<p>・市担当者とも参加している西区グループホーム連絡会などの機会を通じて、ホームからも積極的に接触されたい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・家族には、毎月の利用料の持参来訪を原則としている。その時に担当職員が、利用者の様子を直接伝え相談にのっている。行事案内等は毎月送付し、体調や健康面については随時電話で知らせている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・家族会では家族間の交流、運営推進委員会では外部者を交えた情報交換と交流など、話し合いできる機会づくりをしている。今年度初めての取り組みとして、管理者と家族との個人面談を実施した。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動は少ないが、離職時には2～3ヶ月前から時間をかけて引継ぎをしている。利用者には配慮しながら対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・新人研修はマニュアルを基に行い、外部研修にも積極的に参加を促している。現場では利用者本位の姿勢を重視し、日常的に実践を通して学ぶことを進めている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・3ヶ月に1回、西区グループホーム連絡会に参加し、情報交換の機会としている。</p>		<p>・個々のグループホームの問題に終わらず、職員間の勉強会や交流を通じて前向きな取り組みにつながることを望まれる。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>・入居前はもちろんだが、契約前からでも気軽に寄ってもらえるよう働きかけている。雰囲気馴染るとともに、職員や入居者とも馴染みやよくなるよう余裕をもった対応をしている。</p>		
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>・できないことの方が多くできることは限られているが、気軽に聞きながら一緒に行うことを基本姿勢としている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者の気持ちを汲み取る努力、利用者の立場になって考える姿勢の実践に心がけている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・利用者の役割、楽しみや満足度を中心に家族の意見も聞きながら利用者主体の計画作成に配慮している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・3ヶ月ごとの定期的見直しと、随時の見直しを行っている。個別には月に1回の見直しを計画案として随時記入している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援を行っている。地域の高齢者がショートステイを利用できるよう短期利用共同生活介護の指定を受け、グループホームの多機能性を活かした支援に取り組み始めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・事業所の協力医の他、これまでのかかりつけ医での受診ができるよう家族と協力して通院介助を行ったり、受診結果を家族の来訪時や変更がある時は電話で報告している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・重度化や終末期の看取りについて、家族と個別に話し合っている。終末期の自宅復帰も選択肢の一つとして、重度化するにつれてその都度話し合い、方向性を決めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・法人で、職員対象に研修を行って個人情報の保護に努めている。排泄時の声かけ等羞恥心への配慮をしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・職員は利用者のなげない動作で、その時の本人の気持ちを把握して、出来るだけ個性のある支援を行うように心がけている。行事や習い事、外出等は自由参加にしている。</p>		<p>・事業所では、内容の充実や声かけの工夫で多くの利用者に喜んで参加してもらえるようにしたいと考えている。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・事業所でご飯は炊いているが、おかずは併設施設から運ばれる。利用者は米とぎ、盛り付けの手伝いをすることもある。職員は昼食は利用者と一緒に持参した弁当を食べ、朝、晩は一緒に食事をしない。		・食事に關する一連の作業で利用者ができることが多くあるので、力が発揮できる支援が望まれる。また職員は利用者と同じものを食べ、利用者の好みを知り、メニューの工夫もし、利用者と一緒にする取り組みをすることが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴時間は毎日朝から夕方までの希望の時間に入ってもらっている。入浴を拒む人には声かけの工夫やタイミングを見計らって支援している。		・異性の職員が介助するときは、個々の利用者への配慮を望みたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人ひとりの得意なことを見つけ、役割や楽しみごとに活かして、周りから必要とされる存在としての居心地よい生活への支援がなされている。		・カメラの得意な利用者の撮った写真を事業所のパンフレットに載せてある。リクリエーションの様々な楽しみごとのメニューがあり、それぞれの趣味をもとに自信を持ってできることを探し、職員やボランティアと共にしている。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・以前は遠くへ出かけていたが、最近は近場への外出が多くなっている。近くの公園への散歩、買い物や外食への支援、車椅子で外出への介助をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中玄関は施錠せず、職員が外へ出る利用者に気付いたら、止めるのではなく、さりげなく声かけして見守っている。外から入ってくる人のことを考え、センサーを取り付けている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回利用者と共に避難訓練をしている。 運営促進委員会参加(地域包括支援センターの職員、家族)の避難訓練を行ったが、地域住民の協力は得られていない。		・事業所の住所表示が近隣と異なるため、近隣の自治会と別所属になっている問題がある。周囲と相談して、一番必要な近隣地域の協力を得られる働きかけが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・特に食事摂取量が少ない時は、水分摂取量、食事量を記録して、好みを進める等工夫している。献立を立てる時栄養士がチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有スペースにはコタツのあるたたみコーナーや自然の光が入るよう中庭もあり、窓からは畑が見える。朝日がまぶしい場所には日よけをして季節感や落ち着ける配慮がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・今まで使っていたタンスやイス等使い慣れた馴染みのものを持ち込んでその人らしく落ち着いて過ごせる居室作りがなされている。		

 は、重点項目。